

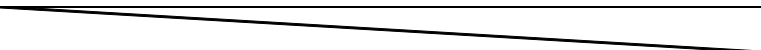
個別施設整理番号	1	林道台帳索引番号	1	施設管理者	西都市
路線名	米良・椎葉線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	古穴手橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	3.4km	建設年度	1973
供用年数	49	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5m(8.0m)		幅員(車道幅員)	5.2m(4.6m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道米良・椎葉線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月21日				
	調査結果	主桁にひび割れ、下部工に欠損、地覆に鉄筋露出が見られたが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあることと、観光道路及び生活道路としての機能も有することから、優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	2	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	入下橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	1.5km	建設年度	1966
供用年数	56	種別	RC橋	型式	RC単純桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.0m(11.2m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月20日				
	調査結果	上部工、下部工、防護柵にひび割れや鉄筋露出が複数見られるため、補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.6				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度に実施した簡易点検の結果により、平成28年度に詳細点検を実施している。

個別施設整理番号	3	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	2.9km	建設年度	1971
供用年数	51	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0m(4.7m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月21日				
	調査結果	損傷はいずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.2				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

--

個別施設整理番号	4	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	上揚1号橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	4.8km	建設年度	1973
供用年数	49	種別	鋼橋	型式	H鋼桁橋
道路橋示方書	昭和47年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.6m(14.6m)		幅員(車道幅員)	5.2m(4.2m)
	施設の構造等	上部工型式	H鋼桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月22日				
	調査結果	主桁に防食機能の劣化や腐食が見られたが、いずれも軽微なもののため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 300千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.3					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度に実施した簡易点検の結果により、平成26年度に補修工事を実施している。

個別施設整理番号	5	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	上揚2号橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	6.3km	建設年度	1977
供用年数	45	種別	鋼橋	型式	H鋼桁橋
道路橋示方書	昭和48年度版	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.3m(15.7m)		幅員(車道幅員)	4.8m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	H鋼桁			
			鋼製(使用鋼材)	SM50YA	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月23日				
	調査結果	主桁に防食機能の劣化や腐食が見られたが、いずれも軽微なもののため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 300千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.3					0.8				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度に実施した簡易点検の結果により、平成28年度に詳細点検を実施している。

個別施設整理番号	6	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	日暮橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	8.6km	建設年度	1983
供用年数	39	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.0m(7.3m)		幅員(車道幅員)	6.0m(5.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年9月20日				
	調査結果	下部工に遊離石灰、うき、欠損等が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 700千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.7					0.4			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	7	林道台帳索引番号	3	施設管理者	西都市
路線名	上揚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	境谷橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	8.9km	建設年度	1982
供用年数	40	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.8m(6.3m)		幅員(車道幅員)	5.4m(4.4m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道上揚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年9月19日				
	調査結果	下部工にひび割れや遊離石灰が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 600千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.6					0.3			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	8	林道台帳索引番号	6	施設管理者	西都市
路線名	岩井谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	平八重橋
施設の所在地	西都市大字穂北	起点からの距離	2.2km	建設年度	1966
供用年数	56	種別	RC橋	型式	RC単純桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.4m(6.9m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承		落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道岩井谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。						
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年9月20日					
	調査結果	A2橋台下流部に局部的な洗掘が見られたが、橋台の沈下や傾斜は確認されない。継続的な監視と予防措置が必要である。					
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	経年変化が考えられる。					
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度					
	内容	定期点検					
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。				
	対策費用(概算)	定期点検 約 800千円					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。						

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		0.8					0.4			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	9	林道台帳索引番号	6	施設管理者	西都市
路線名	岩井谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	姫重橋
施設の所在地	西都市大字穂北	起点からの距離	3.8km	建設年度	1966
供用年数	56	種別	RC橋	型式	RC単純桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.6m(12.0m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道岩井谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和2年1月27日				
	調査結果	主桁に鉄筋露出、下部工に漏水、支承に防食機能の劣化が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 1,300千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		1.3					0.6			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	10	林道台帳索引番号	6	施設管理者	西都市
路線名	岩井谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	境谷橋
施設の所在地	西都市大字穂北	起点からの距離	4.9km	建設年度	1966
供用年数	56	種別	鋼橋	型式	H鋼桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	16.3m(15.5m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	H鋼桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道岩井谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年2月9日				
	調査結果	上部工鋼部材及び支承本体に腐食や防食機能の劣化が見られたが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和2年度に実施した。 次期点検は令和7年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 1,300千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)			1.3					0.8		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考

平成25年度に実施した簡易点検の結果により、平成28年度に詳細点検を実施している。

個別施設整理番号	11	林道台帳索引番号	6	施設管理者	西都市
路線名	岩井谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	4号橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	6.7km	建設年度	1960
供用年数	62	種別	RC橋	型式	ボックスカルバート
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.8m		幅員(車道幅員)	2.8m(2.8m)
	施設の構造等	上部工型式	RCボックスカルバート			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	—	基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	—	海岸からの距離	—		
施設の目的 利用実態等	林道岩井谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年2月8日				
	調査結果	頂版、側壁、底版に鉄筋露出とうきが見られた。特に底版の鉄筋露出については、損傷度が大きく補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和2年度に実施した。 次期点検は令和7年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあり、損傷度が比較的大きいことから優先度は「中」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約 500千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)			0.5					0.3		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考

個別施設整理番号	12	林道台帳索引番号	6	施設管理者	西都市
路線名	岩井谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	5号橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	11.4km	建設年度	1967
供用年数	55	種別	RC橋	型式	門型ラーメン橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.8m		幅員(車道幅員)	3.8m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC門型ラーメン橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	—	基礎形式	直接基礎	
	橋脚工型式	—	海岸からの距離	—		
施設の目的利用実態等	林道岩井谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年2月8日				
	調査結果	路面の凹凸や舗装の異常が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和2年度に実施した。 次期点検は令和7年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 600千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)			0.6					0.3		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備 考

個別施設整理番号	13	林道台帳索引番号	9	施設管理者	西都市
路線名	糸郷谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	糸郷1号橋
施設の所在地	西都市大字中尾	起点からの距離	4.4km	建設年度	1970
供用年数	52	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m(6.5m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道糸郷谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月15日				
	調査結果	主桁にひび割れ、下部工・防護柵・地覆に損傷が見られたが、いずれも軽微なために経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	14	林道台帳索引番号	9	施設管理者	西都市
路線名	糸郷谷線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	糸郷2号橋
施設の所在地	西都市大字中尾	起点からの距離	5.5km	建設年度	1971
供用年数	51	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5m(6.0m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道糸郷谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月15日				
	調査結果	舗装に異常と下部工に欠損や遊離石灰が見られたが、損傷は軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度に実施した簡易点検の結果により、平成26年度に補修工事を実施している。

個別施設整理番号	15	林道台帳索引番号	14	施設管理者	西都市
路線名	囲線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	西都市大字上三財	起点からの距離	0.9km	建設年度	1960
供用年数	62	種別	RC橋	型式	門型ラーメン橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.0m		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC門型ラーメン橋			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	—	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	—		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
	施設の目的利用実態等	林道系郷谷線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。				
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月15日				
	調査結果	主桁下面全体にうき・剥離・鉄筋露出やひび割れが多数見られるため、補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	16	林道台帳索引番号	15	施設管理者	西都市
路線名	笹々礼線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹々礼2号橋
施設の所在地	西都市大字三宅	起点からの距離	1.3km	建設年度	1980
供用年数	42	種別	RC橋	型式	RC単純T桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	14.5m(14.0m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道笹々礼線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月22日				
	調査結果	主桁、横桁にひび割れが多数見られるため、補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	17	林道台帳索引番号	15	施設管理者	西都市
路線名	笹々礼線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹々礼橋三号
施設の所在地	西都市大字三宅	起点からの距離	2.2km	建設年度	1981
供用年数	41	種別	RC橋	型式	RC単純T桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5m(12.0m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道笹々礼線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月1日				
	調査結果	主桁にひび割れが見られたが損傷規模が小さいため、経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.6				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	18	林道台帳索引番号	15	施設管理者	西都市
路線名	笹々礼線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹々礼橋四号
施設の所在地	西都市大字三宅	起点からの距離	2.4km	建設年度	1979
供用年数	43	種別	RC橋	型式	RC単純T桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5m(12.0m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道笹々礼線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月22日				
	調査結果	上部工にひび割れと防護柵に腐食が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.6				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	19	林道台帳索引番号	15	施設管理者	西都市
路線名	笹々礼線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	笹々礼橋五号
施設の所在地	西都市大字三宅	起点からの距離	3.3km	建設年度	1959
供用年数	63	種別	RC橋	型式	RC単純T桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0m(4.0m)		幅員(車道幅員)	3.7m(3.1m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道笹々礼線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月20日				
	調査結果	下部工基礎の洗掘や防護柵の欠損が見られるため、補修の必要がある。				
	健全性の診断結果	Ⅲ (早期措置段階)	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。			
	劣化原因	経年変化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	・定期点検 ・詳細設計 ・架替え工事				
	実施予定時期	平成30年度に定期点検を実施した。 点検結果より、令和2年度に詳細設計を実施しており、令和3年度に架替え工事予定。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 早期措置段階にあることから優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円 詳細設計・更新 約 8,900千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1		2.7	6.2					0.2	
対策の内容・実施時期	定期点検		詳細設計	更新					定期点検	

備 考

--

個別施設整理番号	20	林道台帳索引番号	17	施設管理者	西都市
路線名	長藪線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	長藪橋
施設の所在地	西都市大字八重	起点からの距離	0.1km	建設年度	1970
供用年数	52	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.4m(4.1m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道長藪線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月20日				
	調査結果	主桁に剥離・鉄筋露出、防護柵に欠損が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

--

個別施設整理番号	21	林道台帳索引番号	17	施設管理者	西都市
路線名	長藪線	林道種類及び区分	自動車道3級	橋梁名	一ノ瀬橋
施設の所在地	西都市大字八重	起点からの距離	0.4km	建設年度	1970
供用年数	52	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.1m(5.6m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道長藪線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月20日				
	調査結果	路面の凹凸、防護柵の変形が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

--

個別施設整理番号	22	林道台帳索引番号	23	施設管理者	西都市
路線名	高塚線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	西都市大字南方	起点からの距離	0.7km	建設年度	1995
供用年数	27	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m(6.8m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道高塚線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月1日				
	調査結果	路面の凹凸、防護柵の変形が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	23	林道台帳索引番号	25	施設管理者	西都市
路線名	笹々礼支線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	扇谷橋
施設の所在地	西都市大字三宅	起点からの距離	0.3km	建設年度	1981
供用年数	41	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	溪谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.9m(6.1m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道笹々礼支線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月20日				
	調査結果	主桁・橋台にひび割れ、防護柵に防食機能の劣化が見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.1					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	24	林道台帳索引番号	26	施設管理者	西都市
路線名	尾八重・銀鏡線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	尾八重大橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	0.0km	建設年度	1987
供用年数	35	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(20t)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	37.0m(36.0m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレートガーダー			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道尾八重・銀鏡線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されているとともに、観光施設への経路にもなっていることから、観光客の利用も多い。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年12月21日				
	調査結果	A2支承本体に亀裂が生じているが、主要部材には特段の損傷は見受けられないため、経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性は健全であるが、観光施設までの経路として交通量が多いことから優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 1,100千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		1.1					0.7			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	25	林道台帳索引番号	26	施設管理者	西都市
路線名	尾八重・銀鏡線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	とめ女橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	0.3km	建設年度	1988
供用年数	34	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和55年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(20t)	橋下条件	渓谷

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	50.0m(48.7m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレートガーダー			
			鋼製(使用鋼材)	SMA58QW、SMA41BW SMA41AW、SS41	塗装使用の有無	無
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的 利用実態等	林道尾八重・銀鏡線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されているとともに、観光施設への経路にもなっていることから、観光客の利用も多い。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和1年12月10日				
	調査結果	A2橋台の一部及び支承周りに土砂蓄積が見られた。構造上問題ないが、維持管理の措置が必要である。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年変化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	令和元年度に実施した。 次期点検は令和6年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあることと、観光施設までの経路として交通量が多いことから優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 1,400千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)		1.4					1.0			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考

個別施設整理番号	26	林道台帳索引番号	26	施設管理者	西都市
路線名	尾八重・銀鏡線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	打越橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	7.2km	建設年度	1963
供用年数	59	種別	RC橋	型式	RC単純桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	14.7m(13.9m)		幅員(車道幅員)	3.6m(3.0m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC単純T桁				
			鋼製(使用鋼材)	—		塗装使用の有無	—
		支承形式	鋼製支承		落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台			基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—			海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道尾八重・銀鏡線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は災害時等の迂回路や近隣地域の生活道としての機能も有しており、地域住民の利用もみられる。						
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月16日					
	調査結果	主桁、床版、下部工、防護柵にひび割れや鉄筋露出が複数見られるため、補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。					
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。				
	劣化原因	経年劣化が考えられる。					
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度					
	内容	定期点検					
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。					
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。				
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円					
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。						

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度の簡易点検結果より、詳細点検を実施

個別施設整理番号	27	林道台帳索引番号	26	施設管理者	西都市
路線名	尾八重・銀鏡線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	原児橋
施設の所在地	西都市大字銀鏡	起点からの距離	25.3km	建設年度	1993
供用年数	29	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	平成2年度版	橋格(設計荷重)	1等橋(20t)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	36.0m(35.0m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレートガーダー			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	無
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道尾八重・銀鏡線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されているとともに、銀鏡地区の通学路にもなっている重要な生活道であり、地域住民に頻繁に利用されている。また、災害時等の迂回路としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月28日				
	調査結果	床版にひび割れ、支承部にうきが見られたが、いずれも軽微なため経過観察とした。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性は健全であるが、地区住民の生活道路及び通学路としての機能も有していることから優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 500千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.5					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	28	林道台帳索引番号	26	施設管理者	西都市
路線名	尾八重・銀鏡線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	銀鏡橋
施設の所在地	西都市大字銀鏡	起点からの距離	25.4km	建設年度	1962
供用年数	60	種別	鋼橋	型式	鋼桁橋
道路橋示方書	昭和31年度版	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	38.0m(37.0m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	プレートガーダー			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	有
		支承形式	鋼製支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道尾八重・銀鏡線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されているとともに、銀鏡地区の通学路にもなっている重要な生活道であり、地域住民に頻繁に利用されている。また、災害時等の迂回路としての機能も有している。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月18日				
	調査結果	橋台(堅壁)に水平方向のひび割れが複数見られたが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあることと、地区住民の生活道路及び通学路としての機能も有していることから優先度は「中」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 500千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.5					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

平成25年度の簡易点検結果より、補修工事を実施

個別施設整理番号	29	林道台帳索引番号	31	施設管理者	西都市
路線名	河の口線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	三津塚橋
施設の所在地	西都市大字上揚	起点からの距離	0.0km	建設年度	1997
供用年数	25	種別	PC橋	型式	PC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	33.0m(32.0m)		幅員(車道幅員)	4.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PCホーステン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道河の口線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月23日				
	調査結果	主桁端部にひび割れ、伸縮装置からの漏水が見られるため、補修が望ましい状態ではあるが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 500千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.5					0.7				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	30	林道台帳索引番号	35	施設管理者	西都市
路線名	吐合線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	櫟木橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	0.4km	建設年度	2005
供用年数	17	種別	PC橋	型式	PC桁橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	34.0m(33.0m)		幅員(車道幅員)	7.0m(6.0m)
	施設の構造等	上部工型式	ホストテンション方式セグメントT桁			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道吐合線は、林道中之又・吐合線に繋がる支線であり、中之又・吐合線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道及び、「ひむか神話街道」として観光道路の機能も有していることから、利用頻度が高い。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月28日				
	調査結果	木製防護柵に腐食が見られることから、補修が必要である。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	・定期点検(平成30年度) ・補修設計(令和2年度) ・補修工事(令和3年度)				
	実施予定時期	平成30年度に定期点検を実施した。 点検結果より、令和2年度に補修設計を実施しており、令和3年度に補修工事予定している。 次期点検を令和5年度に実施予定している。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあることと、生活道路及び観光道路として通行量が多い路線であることから、優先度は「高」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 800千円 補修設計・補修工事 約 5,000千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.8		0.5	4.5		1.1				
対策の内容・実施時期	定期点検		補修設計	補修		定期点検				

備 考

個別施設整理番号	31	林道台帳索引番号	35	施設管理者	西都市
路線名	吐合線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	吐合橋
施設の所在地	西都市大字尾八重	起点からの距離	1.1km	建設年度	2002
供用年数	20	種別	PC橋	型式	PC床版橋
道路橋示方書	平成8年度版	橋格(設計荷重)	A活荷重(20t)	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5m(9.7m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的 利用実態等	林道吐合線は、林道中之又・吐合線に繋がる支線であり、中之又・吐合線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。また、当該林道は近隣地域の生活道及び、「ひむか神話街道」として観光道路の機能も有していることから、利用頻度が高い。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年3月20日				
	調査結果	橋台にひび割れ、翼壁下の土砂流出が見られたが、すぐに橋の機能に支障が生じる可能性は低いことから経過観察とした。				
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年劣化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	高	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあることと、生活道路及び観光道路として通行量が多い路線であることから、優先度は「高」とした。			
	対策費用 (概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.3				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	32	林道台帳索引番号	37	施設管理者	西都市
路線名	銀鏡・小川線	林道種類及び区分	自動車道1級	橋梁名	桑木橋
施設の所在地	西都市大字銀鏡	起点からの距離	0.9km	建設年度	2006
供用年数	16	種別	PC橋	型式	PC床版橋
道路橋示方書	平成13年度版	橋格(設計荷重)	A活荷重(20t)	橋下条件	河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.7m(11.8m)		幅員(車道幅員)	5.0m(4.0m)
	施設の構造等	上部工型式	PCプレテン中空床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	逆T式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道銀鏡・小川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林組合等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日	平成31年2月21日				
	調査結果	橋台翼壁の洗掘が見られるため、補修が必要である。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。			
	劣化原因	経年変化が考えられる。				
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検				
	実施予定時期	平成30年度に実施した。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 施設の健全性が予防保全段階にあるが、経過観察のため、優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 200千円				
管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。					

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)	0.2					0.6				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考

個別施設整理番号	33	林道台帳索引番号	10	施設管理者	西都市
路線名	寒川線	林道種類及び区分	自動車道2級	橋梁名	無名橋
施設の所在地	西都市大字寒川	起点からの距離	1.2km	建設年度	1973
供用年数	49	種別	RC橋	型式	RC床版橋
道路橋示方書	—	橋格(設計荷重)	—	橋下条件	谷地

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.0m(5.7m)		幅員(車道幅員)	5.0m(3.0m)
	施設の構造等	上部工型式	RC床版			
			鋼製(使用鋼材)	—	塗装使用の有無	—
		支承形式	ゴム支承	落橋防止の有無	無	
		橋台工型式	重力式橋台		基礎形式	直接基礎
	橋脚工型式	—		海岸からの距離	—	
施設の目的利用実態等	林道寒川線の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在することから、当該施設は森林管理署等により頻繁に利用されている。					
施設の状態等の概要	点検診断日					
	調査結果					
	健全性の診断結果					
	劣化原因					
長寿命化計画の内容	計画期間	平成30年度～令和4年度				
	内容	定期点検により施設の状況を確認する。				
	実施予定時期	令和4年度に実施予定。 次期点検は令和5年度を予定しており、損傷箇所の進展度合いを確認する。				
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 未点検の施設であるが、利用頻度から優先度は「低」とした。			
	対策費用(概算)	定期点検 約 300千円				
管理方法	管理方法	長寿命化対策として、5年に1回の定期点検を行う。 また、路面清掃等維持作業を適切に行う。				

	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
対策費用(百万円)					0.3					0.3
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検

備 考

--